2022年度入試
東京藝術大学美術学部

デザイン科

入試説明会のしおり

Tokyo University of the Arts
Factuly of Fine Arts / Department of Design

東京藝術大学
デザイン科の教育理念

Educational Philosophy

世界は激しく変わりつづけています。
いまデザインには
様々な力が必要とされています。

未来の変化を先取りして
人の暮らしに革新をもたらし
新しい時代を切り拓く力。
守るべき価値を見定めて
伝統を次の世代へ継承する力。
人を思いやり、声なき声に耳を傾ける力。
人間や自然の営みをつぶさに観察し
複雑な事象を整理することで
変化のなかに潜む見えざる文脈を抽出し
本質を読みとる力。
そして、その洞察をかたちにする造形力。

本学デザイン科は、こうした力を
様々な専門領域をもつ10の研究室が
基盤となった教育・研究体制で育みます。
しなやかな感性、論理的思考
多視点の発想、幅広い教養によって
時代の変化に立ち向かう人材を育成します。

研究室・指導教員

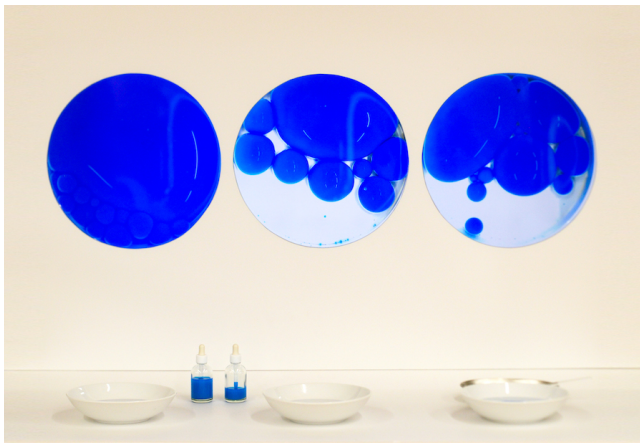
第1研究室	Design Civics	Sputniko! 准教授
第2研究室	Design Alternative	箭内道彦 教授
第3研究室	Time & Space	鈴木太朗 准教授
第4研究室	Visual Communication	松下 計 教授
第5研究室	Design Place	清水泰博 教授
第6研究室	Design Prototyping	長濱雅彦 教授
第7研究室	Design Experience	山﨑宣由 准教授
第8研究室	Draw	押元一敏 准教授
第9研究室	Design Embody	橋本和幸 教授
第10研究室	Design Critical	藤崎圭一郎 教授

4年生卒業制作作品
（令和２年度）より

デザイン科が求める学生像

Admission Policy

つくる力を求めます。私たちの考えるつくる力とは、観察する力・考える力・伝える力を含みます。それは、物事を観察し、全体を俯瞰し、構造を読み取る力。課題を自らの手で見つけ出し、しなやかな感性と自由な発想で自分の答えを見つける力。そして細部にこだわり、美的なかたちにまとめあげ、社会に展開できる力です。
デザイン科・専攻は、つくる力を磨く努力をいとわず、つくる力で世界を揺り動かそうとする強い意志をもつ学生の入学を期待しています。



1 年生実技課題提出作品
（令和 2 年度）より

東京藝術大学デザイン科の特徴

Features

東京藝術大学の前身である東京美術学校は、1887（明治 20）年に創立しました。本学におけるデザイン教育は、1896（明治 29）年図案科の開設までさかのぼり、デザインが産業工芸や商業美術などといわれた戦前から、多様なデザイン領域が確立する戦後から現在まで、デザインの歴史を第一線で築いた優れた人材を多く輩出してきました。

本学デザイン科は、グラフィックデザイン、プロダクトデザイン、空間デザイン、環境デザイン、映像、描画、などの様々な専門領域のもつ教員が指導する 10 の研究室を基盤に構成されています。1 学年 45 名程度で、対話を重視したきめの細かい少人数教育を行っています。学生は、学年進行にしたがって、ゆるやかなかたちで自分の適性を見定め、じっくりと「やりたいこと」を探し出せる、他には類を見ないカリキュラムのもとで学ぶことができます。

Year 1

デザインの基礎力を養います。デジタル基礎と塑像の基礎実技に始まり、「調べること」「機能性を考えること」「観察すること」「素材の可能性を追求すること」への視野を広げる実技課題をこなすことで、創造活動の「足腰」を鍛えあげます。

Year 2

発想力と表現力を問う「生活」に根ざした5つの実技課題が課せられます。併せて選択制の技法演習やデザインの意味を考える講義を通して、学生は自分の適性と「やりたいこと」を徐々に見つけだすことのできるカリキュラムとなっています。

Year 3

現代の社会問題や未来の生活提案力を問う実技課題で、構想力・問題提起力・問題解決力・伝達力を養います。進路を具体的に絞りこんでいけるように、専門性の高い選択授業も用意されています。必修の「古美術研究旅行」では、京都と奈良を2週間訪れます。

Year 4

自分でテーマを決めて1年間かけて卒業制作に取り組みます。指導は10研究室の教員全員であたります。学生4、5人を1人の教員が担当しますが、必要に応じて学生がどの研究室を訪ねてもよい、風通しのよい仕組みとなっています。

デザイン科の入試について

Entrance Examinations

東京藝術大学美術学部デザイン科の入試選抜は、大学入試共通テスト、本学が実施する実技検査、出身学校長から提出された調査書の各資料を総合して判定します。

実技検査は一次選抜として「鉛筆写生（石膏像デッサンまたは構成デッサンのどちらかを選択）」を行い、一次選抜合格者のみが、二次選抜「デザインI（色彩）」、「デザインII（形体）」を受験し、合格者を決定します。
詳細については『2022年度入学者選抜要項』をお読みください。

一次試験　鉛筆写生（石膏像デッサン）

令和 3 年度

【問 題】
台上に置かれた石膏像を与えられた画用ボードに鉛筆デッサンしなさい。

【条 件】
・ 画用ボードは縦位置とする

一次試験　鉛筆写生（構成デッサン）

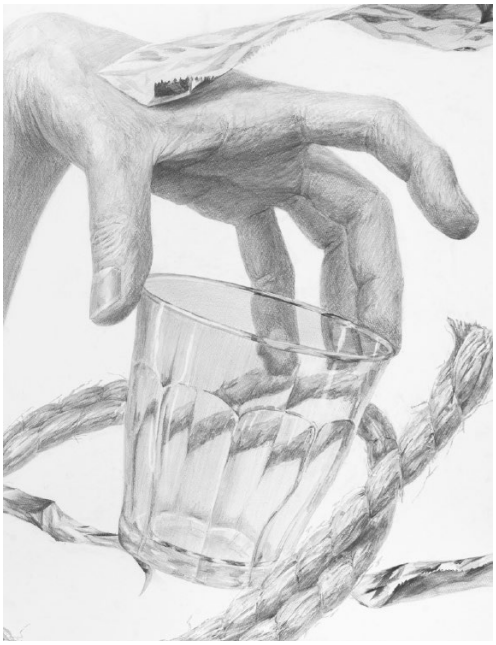
令和 3 年度

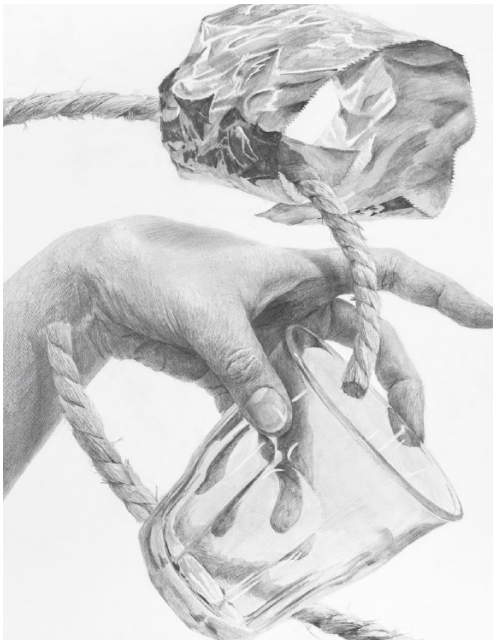
【問 題】

自分の手と与えられたモチーフ 3 種（アルミホイル、ガラスコップ、荒縄）を
自由に構成して、与えられた画用ボードに鉛筆デッサンしなさい。

【条 件】

- 画用ボードは縦位置とする
- 自分の手とモチーフ 3 種は画面内に各 1 点以上描写すること
- アルミホイルは加工してもよい
- モチーフを入れた紙袋はモチーフではない。紙袋は描かないこと





二次試験　デザインⅠ（色彩）

令和３年度

【問 題】

与えられたモチーフ（小松菜・おこし金・菜箸）と水の表情（任意）を組み合わせて、Ｂ３画面に色彩構成をしなさい。

【条 件】

- 与えられたモチーフ3種は画面内に各1点以上配置すること
- おこし金に映り込んだものを描いてもよい但し、自身の顔は描かないこと
- おこし金に映り込んだ世界は想像でも構わない
- 小松菜は袋を外して使用。袋はモチーフではない
- アイデアスケッチは配布された草案用紙（B4サイズ）を使用すること
- イラストボード（B3サイズ）は横位置とする

令和２年度

【問 題】

A. 始めにＢ３イラストボード中央にコンパスで直径２６cmの円を描きなさい。

B. 次にその円を構成要素の１つと捉え、与えられたモチーフ（ガーベラ・アスパラガス・シュロ縄・目玉クリップ）と組み合わせてＢ３画面に色彩構成をしなさい。

【条 件】

- 円の扱いは自由。素材や物体に見立てても構わない
- 円とモチーフの数は自由。その場合の円は、Aで規定された円を除いてサイズは自由
- モチーフ４種は画面内に各１点以上配置すること
- アイデアスケッチは配布された草案用紙（Ｂ４サイズ）を使用すること
- イラストボード（Ｂ３サイズ）は横位置とする

二次試験　デザインⅡ（形体）

令和３年度

【問 題】

「感情の手」を作品の大テーマに、下記に示した《人間の感情》の中から一つ選び、美しく立体構成しなさい。

《人間の感情》

喜び ／ 怒り ／ 慈しみ ／ 驚き ／ 悔しさ

また、完成した作品の物語やイメージを配布された用紙に『詩』の形式で表現しなさい。

【条 件】

- 表現する手は両手、片手、手の数など自由。またその他の要素などを加えてもかまわない
- 立体は与えられた粘土のみを使用し、容量内で制作すること
- 高さは３０cm以内とし、粘土板からはみ出ないこと
- 自立すること
- 粘土べらは加工しないこと
- 作品の中に芯は入れないこと
- 「詩の記入用紙」には《受験番号》と《人間の感情》を必ず明記すること。(例) 怒り
- 試験終了後に「テーマ表記シール」に《人間の感情》を記入して粘土板に貼る作業があるので指示に従うこと

悔しさ

喜び

慈しみ

慈しみ

慈しみ

悔しさ

令和２年度

【問 題】

与えられたモチーフ（ソプラノリコーダー）を用いて、「メロディ」を テーマに、美しく立体構成しなさい。

【条 件】

- モチーフの扱いは自由。ただし切断などの加工は禁止
- 立体は与えられた粘土のみを使用し、容量内で制作すること
- 高さは３０cm以内とし、粘土板からはみ出ないこと
- 自立すること
- 粘土べらは加工しないこと
- 作品の中に芯は入れないこと

Q&A

1. 学部入試について

Q 「石膏像デッサン」と「構成デッサン」のどちらを選択すれば良いのですか？
A どちらが良いということはありません。また評価においても公平性を保ち、優劣の差はありません。基礎描写力を前提としながらもそれぞれの観点が異なります。自分の得意とする方を選んでください。

Q デザイン科の試験にデッサンを課するのは何故ですか？
A デッサン（dessin）が語源的にデザインに近いといわれていることでも分かるように、3次元モチーフを2次元の1枚の画面に収めていくデッサンの技量は、マクロの視点から全体のコンポジションを考える洞察力と構成力、事物を客観的に見る観察力、細部にこだわる表現力、現場で起こる様々な制約を積極的に受け入る適応力、完成までの計画性とそのプロセスなど、デザインの要に大きく繋がるためです。

Q 違反道具を使っている場合、どう対処されるのですか？
A 監督者からの警告を受け、その後も無視して使い続けた場合、退場となります。その他の違反行為についても試験開始前に監督からの注意事項がありますので必ずよく聞いて従ってください。

Q 試験室ごとに石膏像の汚れが違うことについてどう考えているのでしょうか？
A 石膏像に限らずモチーフの状態については、監督者が全試験室を見回って公平に実施できるよう確認しています。公平性を損なうと考えられるモチーフは交換を行い対処しております。

Q 実技の使用道具の基準があいまいだと思うのですが？
A 平成25年度入試より、一次の鉛筆写生の使用道具を、「鉛筆写生に必要な用具一式」とし使用道具の基準を広げることで、使用を注意される基準が試験室・監督者によって違うといった懸念に対処し、より公平・公正な試験を実現できるように配慮しました。今後も基準の徹底を図っていきます。

Q 障害のある入学志願者に対して特別措置はありますか？
A 事前相談の制度があります。詳細は『入学者選抜要項』を参照してください。事前相談は、直前では対応できないことがありますので、日数の余裕をもってご相談ください。

Q 大学入試共通テストの結果はどのくらい比重がありますか？
A 採点に関することは一切公表できません。

Q 採点方法は？
A 採点に関することは一切公表できません。

Q 入試の情報開示としてABC評価が公表されるが、実際の点数でいうと何点区切りですか？
A 採点に関することは一切公表できません。

Q 課題違反はどの程度点数に影響するのでしょうか？
A 採点に関することは一切公表できません。

2. 大学生活について

大学生活は課題制作や実習、講義などによって構成されています。カリキュラム外にも藝祭、部活動、産学官連携事業、国際交流プロジェクトなど多彩です。これらの企画は学生各々の選択によって自由に参加できます。大学や科はそれらの活動を支援する仕組みや制度を設けています。

Q 専攻（グラフィックデザインやプロダクトデザインなど）に分かれますか？
A 分かれません。ただし学年が進むにつれ、緩やかに専門性を追求できるカリキュラムとなっています。総合的な視野をもったクリエーターを育成するために、最初から既存のデザイン領域に学生を縛らず、自分の力で適性を見つける指導を行っています。大学院では、学生は専門領域が違う10の研究室に属し、それぞれの独自の研究・創作活動を行います。

Q 他大学にはない藝大デザイン科の特長は？
A 1学年45人の少人数教育。教員と学生との距離の近さ。プロダクトデザイン、空間デザイン、環境デザイン、グラフィックデザイン、描画、映像など、さまざまな表現領域を学びながら進路が決められるカリキュラムの幅の広さを持っています。音楽学部や、他の美術領域の学科のそれぞれ才能あふれた学生との横の繋がりが生む創作環境も特徴です。1887年（明治20年）東京美術学校開校から130年を超える伝統があります。

Q 授業料免除・入学料免除の制度があると聞きましたが、どのようなものですか？
A 本学には、経済的な理由、または学資負担者が1年前に死亡・被災したことにより、授業料の納付が著しく困難であると認められる者に対し、選考のうえ、授業料の全額または半額を免除する制度があります。入学料に関しても同様に、全額または半額を免除する制度があります。逼迫した経済状態の者に対して選考のうえ、入学料や授業料の徴収を猶予する制度もあります。また、奨学金も各種あります。詳しくは東京藝術大学ウェブサイト（www.geidai.ac.jp）内の「学生生活」の欄をご覧ください。

● 学生の声
私の家は母子家庭です。現在アルバイトをしていますが、授業料免除を受けることにより、学業を第一に考えられる環境にいます。

Q 学生寮はありますか？
A はい。平成26年足立区東和に新しい寮「藝心寮」ができました。家賃Aタイプ：45,900円、Bタイプ：84,200円で使用できます。大学まで電車で約20分です。

● 学生の声
個々人の部屋は完全に分かれているため、単独での制作にも没頭でき、共有スペースでは他科の人とも仲良くなれる良い環境です。

Q どんな工房が使えますか？
A デザイン科には、各学年の学生が課題などの制作を行うためのアトリエがあります。その他に立体工房、平面映像工房があり、それぞれの工房に専門の講師が常駐し、機材の使い方や制作のアドバイスを行います。また、取手校地にも広いアトリエがあるため、より大きな作品を制作することができます。本学全学生が利用できる芸術情報センター（AMC）ではパソコン、レーザーカッター、3Dプリンターが備わっています。

● 学生の声
立体工房と平面映像工房の二つの工房があります。どちらも講師が常駐しているので、機材の使い方から作品の相談まで気軽にできます。

Q 入学後に留学を考えていますが、可能ですか。
A 可能です。スーパーグローバル大学の1つに採択されたことで、留学制度がより充実しました。現在の留学制度の詳細は東京藝術大学ウェブサイト(www.geidai.ac.jp)内の「学生生活」→「留学生・藝大からの留学」の欄をご覧ください。

● 学生の声
藝大は幅広い分野に触れられる自由な場所です。自分にとってのデザインと向き合う時間を沢山持てたことがデンマークのDesign School Koldingへの留学へと繋がりました。

卒業後について

デザイン科卒業生の進路は、大学院への進学・就職・フリーランス活動など様々です。就職においては、多くの魅力ある企業からの採用があり、大手企業に就職する人もいます。また、教員や研究者になる人もいます。フリーランス活動としては、デザイナーのみならずアーティストやクリエイターとして独立するなど、多様な進路があります。

◉主な就職企業リスト2014年～（大学院も含む）

IMJ
AOI Pro.
AQUA
アプシィ
アプル総合計画事務所
味の素
一九堂印刷所
イリア
LPA
WOIL
NHK
NHKアート
NECソリューションイノベータ
エポック社
Encounter Japan
遠藤照明
OAR DESIGN
OUWN
オカムラ
岡安泉照明設計事務所
オリエンタルランド
カプコン
河淳
環境デザイン研究所
銀鳥産業
クリエイティブノルム
隈研吾建築都市設計事務所
講談社
コクヨ
コズフィッシュ
ゴッドキッズ
コロプラ
コンビ
Cygames
サイバーエージェント
サン・アド
サンゲツ
GKグラフィックス
昭栄美術
スクウェア・エニックス
スローガン
セガゲームス
船場
ソニーインタラクティブエンタテインメント
ソニーエンターテインメント
ソニー
大日本印刷
たき工房
丹青社
DeNA
DMM.com
TBSテレビ
TSDO
デプスデザイン
テレビ朝日
電通
東京藝術大学
東北新社
東洋製罐
凸版印刷
日建設計
日産自動車
日本たばこ産業
日本デザインセンター
任天堂
ネイキッド
ドリーム・アーツ
乃村工藝社
ノムラデュオ
博報堂
博報堂DYメディアパートナーズ
パナソニック
ハル研究所
バンダイ
ぴえろ
富士フイルム
プロダクション I.G
ヘルメス
ポーラ
MyDearest
ミキハウス
三菱重工業
三菱電機
ヤフー
やまと
UDS
U'eyes Design
吉徳
LIXIL
リクルート
リビングハウス
ロボット
Yom

I. 藝大デザイン科に入って良かったこと
II. 受験生へのアドバイス

● 阿部 花乃子　1年生

I. 学生のレベルが高く、切磋琢磨できる環境が整っているのがとても良いと感じます。また、課題に対して向き合う時間を長くとることができ、自分が納得できるまで取り組むことができます。まだ入学して間もないですが、今後の授業や課題がとても楽しみです。

II. 私は社会人をしながら1年ほど受験対策をしていました。周りの受験生は当然自分より年下で、しかもとてもレベルが高く、試験日が近づくにつれて焦りが募って仕方がありませんでした。自分の中で満足のいく絵が描けたのは、試験の前日くらいです。最後の最後まで、なんなら当日も、自分にできることを信じぬいて、挑戦するといいのではないかと思います。

● 加賀 大翔　1年生

I. 一つひとつの課題において、異なった考え方や特色を持つもの同士がそれぞれ思い描くデザインについて思考を巡らすので、色々な刺激に溢れています。そして、それを互いにリスペクトし合える関係があるのも魅力だと思います。

II. 自分なりの考え方への自信は、自分は一体何が好きなのかを知ることによって強くなります。どうしても不安が拭えない時は、一度自分を見つめ直して、作る楽しさを思い出すと良いかも知れません。

● 永野 杏　1年生

I. 初めて触れる素材や機械、様々な分野の授業に課題。自分の表現の幅が広がっていくのを感じます。今までしたかったことが、全部、形に出来そうな、そんな予感に心躍ります。

II. 好きな作品の共通点など、自分の“好き”の構成要素を知ることが大切だと思います。それを知ることで、作品の中にも“好き”なことを反映させやすくなり、それが他人とは違う、魅力にもつながると思います。

● 増永 梨王　1年生

I. 個性的な44人のクラスメイトの存在から刺激を受け、日々新鮮な気持ちで制作に取り組めています。分野を限定せずにさまざまな角度からデザインを学べるカリキュラムも魅力的だと思います。

II. 自分にとって美しいものとは何か・どうしてそれを美しいと感じるのかを言語化してみると新しい発見があるかもしれません。心の底から応援しています！

● 近藤 ののか　2年生

I. 広くデザインを学べるので、職業体験みたいで楽しいです。例えばカメラマンや雑誌編集など。課題を通して自分のやりたいことを表現するための新たな手法を開拓できます。もっと深く知りたいことがあったら快く教えてもらえる良い環境です。

II.「藝大に入りたい！」という欲望こそ受験の困難に打ち勝つ力になると感じます。

● 高橋 絵　2年生

I. 自分の得意不得意の分野関係なく課題に取り組んだり、多種多様な同級生と意見を交わす中で、それまで目につかなかった思いがけないところに自分の興味が生まれることです。

II. 常に客観的な視点を持つことが大事だと思っていました。冷静な心で自身の全力を出し切れるよう頑張ってください！

● 原田 雅大　3年生

I. 何でもチャレンジできることです。様々な分野の課題に自由に取り組めるため、視野が広がると思います。初めてのことをするときには、助手や工房の先生、自分と違う知識を持った仲間が助けになってくれます。

II. 自分の好みや軸があることが大切だと思います。こういうのが好き！作りたい！という思いが、きっと作品を魅力的にしてくれます。それを課題に結びつける思考力、対応力があれば、入学後も楽しく制作に取り組めると思います。

● 渡邊 桃　3年生

I. 自分とは異なる興味を持つ人たちと共に学べることです。同じ課題を出されても一人一人考え方や作るものが違うのでいい刺激がもらえます。わからないことがあった時、各工房の先生や友達にすぐ聞くことができるのも魅力的です。

II. 私は浪人中に「知らないものに積極的に触れる時間」を設けていました。画集や映画など思わぬところで吸収したものが表現の引き出しになることもあります。受験と離れられる時間にもなるので、個人的にはおすすめです。

● 北原 経至　4年生

I. 藝大デザイン科は、特定の領域に縛られることなく「美術に関して何でも学ぶことが出来る最高峰の科」だと思います。また、能力の高い最高の友人達に囲まれての生活は意義深く、幸せだなと感じています。

II. どの大学に入ろうが努力次第で幾らでも自分を高めることは出来ると思います。だから藝大じゃないとダメだとは一切思いません。ですが、最難関に挑み高めた能力と経験は、必ず自分の人生を豊かにしてくれると思います。

● 渡辺 真有　4年生

I. デザインの専門分野に縛られることなく、様々な経験をしている仲間と近い距離で自由に制作できる環境にいられるところです。ひとクラスの人数が少ないぶん先輩後輩との交流の機会も増え、日々刺激をもらっています。

II. 何が好きで何に興味をもっているのか、自分を分析して知るところから表現の強みは出てくると思います。何気ない日常の一瞬が閃きに繋がることもあります。固く考えすぎず「楽しい」という気持ちを大切にがんばってください！

発行：東京藝術大学美術学部デザイン科
デザイン：木下真彩
発行日：2021 年 5 月 24 日